

目的 これまで腰部横断面データから立体形状を把握し、自動分類した体型別にスカート設計への具体的な手がかりについて検討してきた。今回はより個人の体型にフィットしたスカートパターンを作成するために分類方法を見直し、腰部体型を偏平型、普通型、丸型の3タイプに分け、さらに左右差も考慮しながらタイプ別に最適と思われるダーツ位置、分量、長さについて基礎的な情報を得る。

方法 若年女子30名についてスライディングゲージ法によりウエスト、中ヒップ、ヒップの各横断面を測定し、横断面円周上の座標データをコンピュータに入力して、クラスター分析の4手法および偏平率による分類を行って比較した。分類されたタイプ別に左右差を検討し、腰部の横断面、縦断面上の曲率分布の平均値からダーツを求める。

結果 腰部体型の分類については、ウエスト、中ヒップ、ヒップの偏平率の平均による分類方法が最も有効となり、各部位でタイプ間の有意差が認められた。また腰部の左右差については、計測断面と右半身の対称、左半身の対称、右半身と左半身の平均値の対称のデータを比較したところ、スカートパターンの対称性と実寸との差から、右半身と左半身の平均値の対称のデータが最適であることがわかった。各タイプ別の平均曲率分布は、それぞれの体型の特徴がよく表れており、決定したダーツはスカートのフィット性に十分寄与すると思われる。